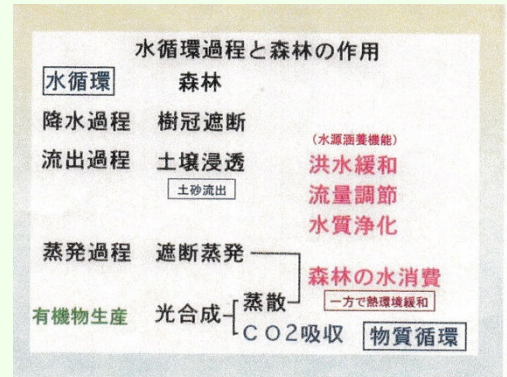


活動分野	森に親しむ講座		
タイトル	水を育み洪水を防ぐ〈水源の森〉		
実施日時	平成28年11月24日(木)10時~12時		
実施場所	千葉市文化センター		
受講者	37名	FIC会員他スタッフ	10名

活動の内容

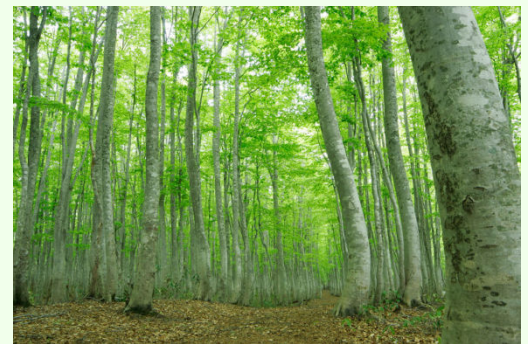
① 森林に降った雨水の一部は樹幹遮断されるが、大半は地面にし、落葉や枯枝でおおわれた団粒構造の発達した腐葉土層に浸透する。森林の土壌は、土の中にたくわえられた水をゆっくり流出し、水源かん養機能の全てを発揮する。降水を貯蔵し、河川に流れ込む水量を平準化し、水量を安定化させる緑のダムこそ水源かん養機能の本質といえる。また、森林は多くの水を消費する。降水を樹冠で遮断して蒸発させ、森林の樹木や植物は、土中の水を吸い上げて空中で蒸散させる。年間降雨量のほぼ半分が蒸発散で失われる。蒸発散は、水源かん養機能の必要経費であり、損失ではない。



東京農業大学(大田)

② 森林は大雨による土地浸食や土砂くずれなどの災害を防いでくれる。森林土壌が雨水を浸透し続けることで、地表流出の水量を減らし、その速度を遅くして土の侵食を防ぐことが重要である。集中豪雨は、山崩れや土石流など土砂災害をもとらす。土の中に深く張りめぐらされて木の根が土や石をしっかりと抱き抱えており山崩れを防いでくれる。山の斜面では森林が障害物となって、土石流を食い止め、崩落による被害を軽減してくれる。

③ 首都圏の水瓶利根川。その水源は群馬県北部、新潟県境に広がる奥利根の国有林である。水瓶の素は雨と雪、水源付近は、夏は雷雲が発生しやすく、冬は雪深い。年間降雨量およそ1800mmという豊富な水が人びとの暮らしを支えている。自然休養林は、樹齢200年を超えるブナ大木の天然林で、高い保水力で水をたくわえ、林床の土壌が雨水や雪融け水を吸い込んでくれる。水源近くにはダムが集中設置するが、その貯水能力は年間降雨量の5%程度で、森林の緑のダムとしての働きがきわめて大きいといえる。



奥利根水源の森自然休養林

④ 昔の人は、森を畏れ尊んで、集落近くの水源の森に水の神を祀り、日照りの時は雨乞い、長雨の時は洪水のないことを祈願した。水源の神をオカミノカミといい、水の供給を司る龍神である。オカミ信仰の総本宮・貴船神社(京都)では、祈雨の時は黒馬、祈止めのときは白馬を、生きたまま献上していたが、後に生き馬に変えて「板立馬」が奉納されるようになった(絵馬の原形)。オカミ信仰と雨乞いは古人の知恵であり、人が生きていくための心のよりどころでもあった。



貴船神社の絵馬